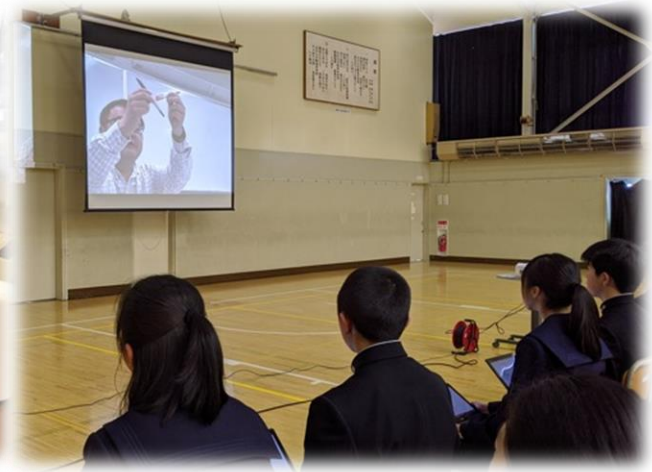


# 中規模校どうしにおける遠隔合同授業



## 取組の背景・課題



附属函館中3年A組 (35名)  
福島中3年A組 (27名)

一人一台のICT端末環境

いつも同じ他者への提案・反論

- \* 緊張感に欠ける(親密な関係性)
- \* 不十分な言葉でも伝わってしまう

## 遠隔教育を行う理由

生徒の実態の観点から

# 関わりのない他者への提案・反論

\* 緊張感が生まれる \* 相手に伝わる言葉・表現

社会科（「地方自治」）の授業としての課題から

# 自分のまちから「離脱」し、「よそ者」として考察することによる単元目標の実現

参考：単元「地方自治」の目標

- 地方自治の意義や仕組みなどの基本的な考え方や、地方財政の状況などを理解する。
- まちの課題を明らかにして、その課題を克服するための政策案を立案する。
- まちづくりへの一般的な視点とともに、生活者の視点によるまちづくりの重要性を理解する。

授業の展開・内容

社会科・公民的分野「地方自治」

附属函館中

福島中

函館市の課題

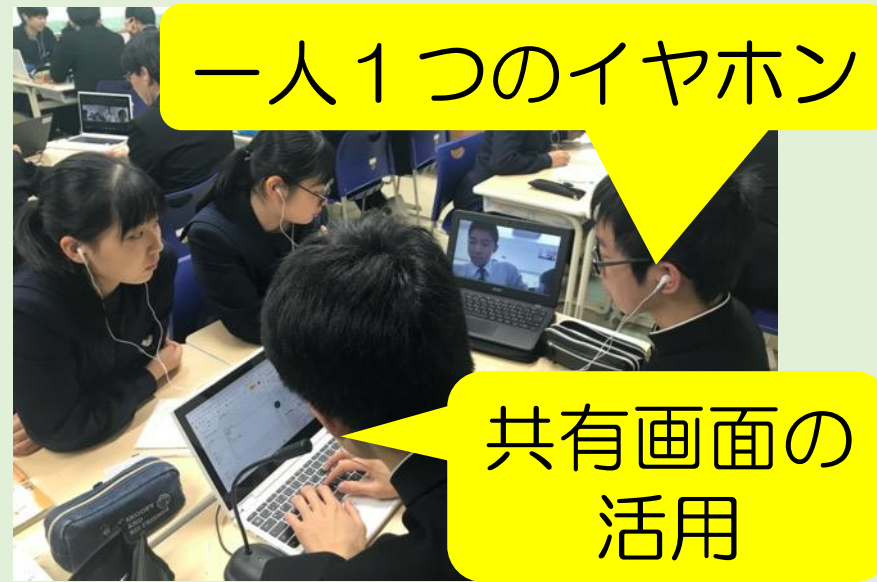
福島町の課題

②・③

①

①相手側の課題解決の政策案を立案

②相手に政策案を提案 ③提案への反論



## 遠隔授業の効果

## 関わりのない他者への提案・反論

# 86%の生徒から 関わりのない他者との議論の意義に関する記述

生徒アンケートでの記述（一部）

「地方自治」での授業の感想、授業で工夫したこと

- 相手の意見もしっかり聞き入れ、時折こちらから質問を投げかけることで自分の知識・思考をより一層深めるだけでなく、コミュニケーション能力などといった社会に出てからも活用することができた。
- もっと時間がほしい。今まで考えなかった視点からの意見だったので新鮮だったし面白かった。
- 相手からたくさん意見をもらうために、こちらからたくさん質問した。

## 遠隔授業の効果

## 単元目標の実現

## 75%の生徒から単元目標の実現に関わる記述

生徒アンケートでの記述（一部）

遠隔授業によって『地方自治』『まちの課題を解決する政策』  
に対してあなたが感じたことや学んだこと

- 地域ごとに課題というのはぜんぜん違う。地方自治を行うためにはその地方公共団体に所属している**住民一人一人の視点や感覚が大切だ。**
- **自分の市に住んでいる以外の人**の意見を聞くことは、まちの課題を解決するのにとって重要なこと。
- 福島中が提案してくれたものに意見や市の特徴など説明することができたので、**改めて自分の住む市について理解を深めることができた。**